

**製品名: CD314 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08355**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	25kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KLRK1
別名	KLRK1; D12S2489E; NKG2D; NKG2-D type II integral membrane protein; Killer cell lectin-like receptor subfamily K member 1; NK cell receptor D; NKG2-D-activating NK receptor; CD antigen CD314
遺伝子 ID	22914.0
SwissProt ID	P26718
免疫原	抗血清はヒト KLRK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

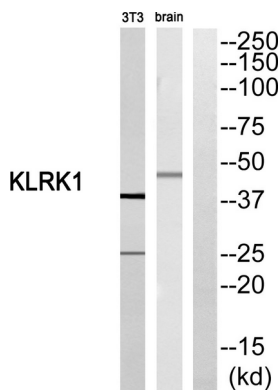
**背景**

ナチュラルキラー（NK）細胞は、特定の腫瘍細胞やウイルス感染細胞を、事前の活性化なしに溶解させることができるリンパ球です。また、特異的な体液性免疫および細胞性免疫を調節することもできます。NK細胞は、NK細胞機能の調節に関与することが示唆されている複数のカルシウム依存性（C型）レクチンを優先的に発現します。NKG2 遺伝子ファミリーは、NK細胞で優先的に発現する複数のC型レクチン遺伝子を含む領域であるNK複合体内に位置しています。この遺伝子はNKG2ファミリーのメンバーをコードしています。コードされている膜貫通タンパク質は、II型膜配向（細胞外C末端を持つ）とC型レクチンドメインの存在を特徴とします。MHCクラスI鎖関連Aタンパク質およびBタンパク質、UL-16結合タンパク質など、多様なリガンドファミリーに結合し、リガンド-受容体相互作用により代替産物の活性化を引き起こす。多くのアイソフォームが産生される。機能：MICA、MICB、ULBP1、ULBP2、ULBP3（ULBP2>ULBP1>ULBP3）、ULBP4の受容体。NK細胞および一部の細胞傷害性T細胞によるMHCクラスIHLA-E分子の認識における受容体としての役割を担う。Tリンパ球およびBリンパ球による免疫監視に関与する。その他：マウスおよびヒトのNKG2D受容体には、構造的に異なるリガンドファミリーが同定されている。これらは相同遺伝子である可能性がある。オンライン情報：NKG-2D。類似性：C型レクチンドメインを1つ含む。サブユニット：ホモダイマー。DAP10と相互作用する。NKG2D細胞表面発現にはDAP10との相互作用が必要である。組織特異性：ナチュラルキラー細胞。新鮮分離PBMC由来のほぼ全てのCD56+CD3- NK細胞に発現する。γ-δ細胞およびCD8+ α-βT細胞にも検出される。インターフェロン産生キラー樹状細胞（IKDC）にも発現する。

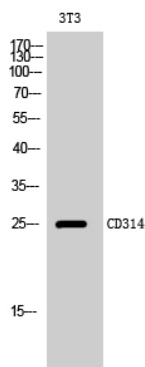
## 研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;

## 画像データ



KLRK1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンはKLRK1 ペプチドでブロッキングされている。



CD314 ポリクローナル抗体を用いた3T3細胞のウェスタンブロット解析

